

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和6年11月6日（水） 14:00～16:00
- 3 開催場所 可児高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	藤原 美雪	(可児高校PTA会長)
副会長	吉田 竹虎	(可児市立西可児中学校長) (欠席)
委員	市原 崇光	(可児市商工会議所副会頭)
	安藤 麻記子	(可児市役所産業振興課主任)
	菰田 さよ	(可児市国際交流協会)
	杉浦 浩子	(岐阜医療科学大学看護学部学科長) (欠席)
	野村 次郎	(総合型地域スポーツクラブFCV理事長)
	吉田 孝尚	(坂戸地区自治会長)
	山口 伸行	(坂戸地区副自治会長)
学校側	川地 晃正	校長
	二村 文敏	教頭
	虫賀 則行	事務長 (欠席)
	内藤 崇	教務主任
	水谷 賢司	生徒指導主事
	山下由香理	進路指導主事
	日下部まみ	(記録係)
	田中 乃愛	(記録係)

### 5 会議の概要（協議事項）

- (1) 令和6年度 学校評価について（教頭より説明）
- (2) 協議（スクール・ミッションの策定について）

#### ① 授業について（授業参観の感想等）

意見1：昨年度制服に関する校則の変更があったため、生徒の服装に着目したが、生徒は新しい校則を踏まえた適切な服装をしており個性がみられるようになった。隣同士の交流を活発に行っていると感じた。

意見2：校則変更後でも高校生らしい服装をしていた。また、生徒が生き生きとした目で授業を聞いていた。生徒に合わせた授業であると感じた。やらされているのではなく主体的に参加する授業である様子が伺えた。

意見3：先生の雰囲気や工夫が授業の随所で見られるため、受け身にならず学ぼうという姿

勢があり、大変良かった。

意見4：授業態度は良く、集中して取り組んでいる。生徒と教員の距離が近く、生徒も楽しそうだった。

意見5：当時、通っていた時も楽しそうだったが、今はもっと楽しそうだと感じる。教員主導から生徒主導になっているのもよい。

意見6：生徒の荷物が通路に置いてあり、通りにくそうだった。荷物が多いのではないか。  
⇒教科書や副教材など持ち物が多い。自転車通学の生徒が多いが、運転にも危ない。どうにか減らせないかと考えている。

意見7：体育では、先生が上手く声掛けをして生徒をやる気にさせている。メリハリがあり、運動がとても良い息抜きにもなっている。

## ② スクール・ミッションの策定について

意見1：学校の思いを簡潔にまとめるのが大変である。教職員の思いも重要である。スクール・ミッションは新しく示されるものであるということで、分かりやすいことが最重要ではないか。

意見2：スクール・ミッションは誰に向けたものか。  
⇒県民全体に可児高校の役割を示すものである。統一の文言で文章の体裁を揃える必要があるため、他の学校と似てしまう懸念がある。

意見3：「豊かな」という言葉を、「多様な」という言葉に変えてもいいのではないか。性別や人種にとらわれないこれからのグローバルな社会の中で活躍できる生徒の育成を目指してほしいと思う。

意見4：文章の中で特に重要な箇所を考えると、冒頭と最後の内容が似ていると感じる。可児高校としては、やはり「リーダー」という言葉は外せないのではないか。

意見5：可児高校らしさを表すため、リーダーという言葉は必要であると思うが、可児高校ではどのステージでも活躍できる人材を育成しているので、「社会に貢献」「社会で活躍」という言葉はあえて入れなくても良いのではないか。

意見6：「豊かな（多様な）人材の輩出を期待される学校として、探究と生徒主体の活動を通して、豊かな人間関係を築き、自らの道を切り開き、リーダーの育成を目指す学校」と簡潔化できるのではないか。

## 6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、学校評価の結果についての感想や今後の学校改革の方向性について意見が出された。また、提示したスクール・ミッション（案）について、具体的な文言の改善などについて様々な提案がなされ、より本校らしいスクール・ミッションを策定に向けての協議ができた。提案を踏まえて、第3回の委員会ではホームページで公開する「スクール・ミッション」を提示する。